

自分を成長させてくれた江蘇杯 中国語スピーチコンテスト

現代中国学部3年
浅井 阜

私は、人前で話すことが苦手でした。入学したからには語学が上手になりたい、以前の自分を少し進歩させたい、そんな思いを持ちながらも、外国語でしかも人前で話すのはハードルが高く、江蘇杯中国語スピーチコンテストに参加するつもりは全くありませんでした。

しかし、先輩の美しい中国語の発音・流暢さ、そして自分の意見を述べようとする前向きな姿勢を見て感動しました。なぜこんなに上手なのかと尋ねてみると、江蘇杯に参加したことがきっかけであることを知りました。当時1年生だった私は、勇気をだして江蘇杯の初級班である朗読部門に参加する決心をしました。

そこからは苦難の連続でした。まず、正しい発音の特訓に、抑揚・暗誦と、1つの発表にやることのオンパレード、賞を取るには程遠いものでした。しかし、必死に練習したおかげで1等に入賞し、2年生の夏には8日間の文化旅行に参加しました。初めて見る南京は歴史的建造物が多いと感じ、日本との繋がり深さを身に染みて感じました。

この経験を経て、2年生の冬には2回目の江蘇杯（中上級）のスピーチ部門に挑戦しました。しかし、いざスピーチ原稿を書こうとすると自分の想いや経験を表現することが難しく、また、表現するには自分の経験の圧倒的な少なさを思い知らされました。大会までは原稿を毎日覚えるまで読み込んだのはもちろんのこと、発音が悪い箇所、覚

えていない箇所があれば、その部分を徹底的に読み込みました。家で・電車で、時には登下校中にも暇さえあればその場で確認を行っていました。その時、力になってくれたのは何人も外国人の友達です。口の動きの確認や感情の込め方も、熱心に教えてくれました。

本番当日、自分のことに集中しつつ、出番以外は出場者の良い部分を少しでも多く吸収しようとしていました。複数の発表者を見ていると、練習してきた自分のベストをしっかりと発揮しされるか不安になってきました。しかし、壇上上がった際、みんなが私のほうを見て一生懸命自分のスピーチを聞いてくれていることに気づき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

納得のいく結果にはまだ遠いですが、消極的だった自分を変える大きなきっかけになったこと、継続的に練習に励んだこと、自分が伝えたい思いを伝えるために努力した姿勢は絶対に消えない、誰かの中に届くと実感しました。

江蘇杯中国語スピーチコンテストは、目標に向かって段階的に積極的に取り組むことを教えてくれました。このような経験ができたことを、誇らしく思っています。



2018年8日間江蘇省文化旅行（2017年江蘇杯受賞者）